

30年7月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 7月1日～ 28年7月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は5社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		30/7月	8月	9月
入荷動向	スギ	0.0	△ 10.0	20.0
	ヒノキ	△ 12.5	△ 12.5	12.5
	カラマツ	0.0	△ 10.0	10.0
	トドマツ	16.7	0.0	0.0
消費動向	スギ	0.0	△ 10.0	20.0
	ヒノキ	0.0	△ 25.0	25.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	16.7
在庫動向	スギ	10.0	10.0	0.0
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	△ 10.0	△ 10.0
	トドマツ	25.0	△ 25.0	△ 25.0

・スギ国産原木の入荷動向は7月の横ばいから8月のは減少、9月は増加に。ヒノキは7月、8月の減少から9月は増加に。カラマツは7月の横ばいから8月は減少、9月は増加に。トドマツは7月の増加から8月、9月は横ばいに。

・スギ、ヒノキの消費動向は7月の横ばいから8月は減少、9月は増加に。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは7月、8月の横ばいから9月は増加に。

・スギの在庫動向は7月、8月の増加から9月は横ばいに。ヒノキは3カ月連続横ばい推移。カラマツは7月の横ばいから8月、9月は減少に。トドマツは7月の増加から8月、9月は減少に。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/7月	8月	9月
スギ	0.0	0.0	10.0
ヒノキ	0.0	0.0	0.0
カラマツ	10.0	0.0	10.0
米マツ	33.3	50.0	50.0
北洋カラマツ	0.0	0.0	16.7
その他	0.0	0.0	0.0

・スギ、ヒノキ合板用原木の購入価格動向は保合。
・カラマツ、北洋カラマツとも強保合。
・米マツ強含み。
・その他(トドマツ)は横ばい推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・6月はスギ丸太の入荷が少なかったため、7・8月の入荷を増やす予定。国産材の消費をさらに増やすべく取り組んでいる。6月末のスギ在庫が大きく減ったので少しずつ在庫を増やしていく予定。
・スギ、ヒノキ、カラマツ丸太の入荷は変わらず。カラマツを主体に消費。在庫はスギ、ヒノキ、カラマツ丸太とも変わらず。
・入荷、消費ともは横ばいで計画通り。適正在庫に戻りつつある。
・雨の影響で出材が減っているため入荷も減少するだろう。消費は稼働日数で決まる。在庫は横ばいをキープしたい。
・現在、入荷に問題ないが、今後全般的に心配あり。翌月は休日多く消費減少。カラマツ、トドマツは貯めたいが在庫増えず。

(原木価格)

・国産・外材とも全体的に横ばいながらも、米マツは今後山火事の懸念もあり強含みを予想する。
・カラマツ、北洋カラマツともに高値で推移。
・下目材は単価安に、20cm上は単価変動なし。
・原木の購入価格も横ばいをキープしたい。
・カラマツ、外材は価格上昇傾向かわらず。

30年7月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		30/7月	8月	9月
生産動向	構造用(9mm)	10.0	△ 10.0	30.0
	〃 (12mm)	0.0	△ 8.3	16.7
	〃 (15mm)	△ 8.3	△ 8.3	16.7
	〃 (24mm)	0.0	△ 8.3	16.7
	〃 (28mm)	0.0	△ 8.3	16.7
出荷動向	構造用(9mm)	10.0	△ 10.0	30.0
	〃 (12mm)	0.0	△ 8.3	16.7
	〃 (15mm)	0.0	△ 16.7	16.7
	〃 (24mm)	0.0	△ 8.3	16.7
	〃 (28mm)	0.0	0.0	8.3
在庫動向	構造用(9mm)	0.0	0.0	△ 10.0
	〃 (12mm)	0.0	0.0	△ 8.3
	〃 (15mm)	0.0	0.0	0.0
	〃 (24mm)	8.3	0.0	△ 8.3
	〃 (28mm)	0.0	0.0	△ 8.3

・構造用合板の生産動向は9mmが7月の増加から8月は減少、9月は再び増加に。12mm、24mm、28mmは7月の横ばいから8月は減少、9月は増加に。15mmは7月、8月の減少から9月は増加に。

・出荷動向は9mmが7月の増加から8月は減少、9月は再び増加に。12mm、15mm、24mmは7月の横ばいから8月は減少、9月は増加に。28mmは7月、8月の横ばいから9月は増加に。

・在庫動向は9mm、12mm、28mmは7月、8月の横ばいから9月は減少に。15mmは3カ月連続横ばい推移。24mmは7月の増加から8月は横ばい、9月は減少に。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	30/7月	8月	9月
構造用(9mm)	0.0	0.0	0.0
〃 (12mm)	0.0	0.0	8.3
〃 (15mm)	0.0	0.0	8.3
〃 (24mm)	0.0	0.0	8.3
〃 (28mm)	0.0	0.0	8.3

・各品目とも横ばいだが、今後のコスト上昇次第では強含みに。

モニターからのコメント

(構造用合板の荷動き)

・工場はフル生産を継続中。フロア台板など種類が増えているため、今後の市況の盛り上がりを予測し、在庫を積み増しておく。出荷動向は、需要は盛り上がりには欠け荷動きは鈍い。これから秋口に向け荷動きが回復してくるものと思われる。12mmと24mmの在庫が増えてきているが、今後需要が増えると予想しており、フル生産体制は継続する。

・少量生産につき各品目とも変化なし。

・計画通り生産。24mm、28mmは出荷を増加。5~6月の出荷減で在庫は増やしたものの当月解消見込み。

・稼働日数による生産となる。8月は盆休みで設備のメンテナンス作業により生産減となる。発注状況に合わせた生産内容となる。出荷は6月も荷動きは低調だが、梅雨明け以降忙しくなる。荷動きに合わせた出荷となる。在庫量は低水準のままで増える状況になく、生産=販売の動きで推移する。

・猛暑により生産減。出荷はこれまでよりは引き合い増加。

(構造用合板の価格)

・価格に変動なし。

・各品目とも変化なし。

・ほぼ横ばい(中部)。

・各品目とも価格は横ばい。原木価格、他のコスト次第では価格見直しもあり得る。このまま様子見状態。 ・今後、コスト上昇により価格も上昇に。